

<報道関係各位>

2012年2月24日

山田・大槌 浜のミサंगा「環」生産者協議会  
陸前高田 浜のミサंगा「環」生産者協議会  
大槌ご当地グルメ開発プロジェクトチーム  
三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会

東日本大震災からまもなく1年…応援いただいた京都の皆さんと交流

## 「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」開催

復興への祈りを込めて漁網のミサंगाを編む三陸の女性たちとともに、  
いわて三陸のご当地グルメが京都に集い、“復興への懸命の歩み”と“感謝”を伝えます

【日時】3月3日(土)11時～16時／【場所】三条大宮公園(三条会商店街)

### 京都市長を表敬訪問

3月5日(月)9:00～9:15 京都市役所本庁舎3F市長応接室

山田・大槌 浜のミサंगा「環」生産者協議会・陸前高田 浜のミサंगा「環」生産者協議会・大槌ご当地グルメ開発プロジェクトチームは、三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会と連携し、「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」を、3月3日(土)11時より、三条大宮公園(三条会商店街)にて行います。

「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」は、復興への祈りを込めて「浜のミサंगा 環(たまき)」を作り続けてきた岩手県山田町・大槌町・陸前高田市の女性たちが、三陸の食とともに復興への懸命の歩みを語り、ご支援いただいた皆様へ感謝の気持ちを伝える交流イベントです。

#### ■浜の女性たちが復興へ願いを込め、漁網で手作りした「浜のミサंगा 環(たまき)」実演・販売と復興語り

東日本大震災で甚大な津波被害を受けた浜の女性たちは、いわし漁などに使われる漁網と麻紐を使って手仕事を始めました。この「浜のミサंगा 環」は、浜から浜へと広がり、これまでに岩手・宮城の約300人の作り手により12万セット以上(2012年1月31日現在)を生産してきました。ミサंगा1セットのご購入で700円以上が被災地の皆さんの賃金となり、被災者の自立支援を目指しています。ミサंगाは、震災で深く傷を負った女性たちに仕事と仲間、ほっとする笑顔をもたらしました。イベントでは、ミサंगाを作り続けてきた女性たちが手仕事の実演・販売を行い京都の皆さんと復興を語り交流します。

#### ■震災後に生まれた、新しい大槌町のご当地グルメも登場。

加えて当日は、被災地で活動してきた炊き出しキャラバン「いわて三陸復興食堂」も京都の皆さんとの交流と出合いをサポートします。「いわて三陸復興食堂」は昨年8月、京都の夏の観光イベント「京の七夕」に参加、多くの京都の皆さんからあたたかな支援をいただきました。今回はその支援への感謝の気持ちを込めて、大槌町で開発中の海産物を使ったご当地グルメや、「三陸復興 イカ焼きそば」、「三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ」などを提供します。また山田町と大槌町の「震災から1年の懸命の歩み」を写真パネルにてご覧いただくほか、被災地で活動続けるミュージシャンらによる音楽ライブも行います。

また山田・大槌 浜のミサंगा「環」生産者協議会と大槌ご当地グルメ開発プロジェクトチームは、復興食堂実行委員会とともに、3月5日(月)9時より、京都市長を表敬訪問します。

なお、本事業は、農林水産省の『食と地域の絆づくり被災地緊急支援事業(農山漁村コミュニティ活性化対策)』の支援を受けて実施しています。

つきましては、報道関係者の皆様には、ご多忙の折かと存じますが万障お繰り合わせの上、ぜひご取材いただきたくお願い申し上げます。

<本件に関する報道関係の皆様からのお問合せ先>

「三陸に仕事を！プロジェクト」広報デスク(プランニング・ボート) 福嶋・瀬尾

TEL: 06-4391-7156 携帯TEL: 090-8163-3160(福嶋)

<一般の皆様からのお問合せ先>

三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会 [info@sanriku-shigoto-project.com](mailto:info@sanriku-shigoto-project.com)

※大変お手数ではございますが会場準備の都合上、ご取材いただける方は3月2日(金)までにFAX返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。

## 「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」概要

- 名称 「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」
- 日時 2012年3月3日(土) 11:00~16:00
- 場所 三条大宮公園 (三条会商店街)  
※京都市中京区三条大宮交差点周辺
- 主催 山田・大槌 浜のミサンガ「環」生産者協議会 (ミサンガブース)  
陸前高田 浜のミサンガ「環」生産者協議会 (ミサンガブース)  
大槌ご当地グルメ開発プロジェクトチーム (食堂ブース)
- 企画・運営 三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会
- 運営 復興食堂実行委員会
- 協力 京都市、三条会商店街
- 趣旨 被災地・三陸で生まれた復興への想いを込めた手仕事「浜のミサンガ 環」は、震災で深く大きな傷を負った浜の女性たちに仕事と仲間、そしてほっとする笑顔をもたらしました。そこで今度は、ミサンガを作るだけでなく支援いただいた京都の皆さんと復興を語り、交流し、ありがとうの気持ちを伝え、また元気をいただく、感謝と復興のキャラバンを行います。
- 内容
- 1) 「浜のミサンガ 環」三陸の作り手女性たちによる実演・販売&復興語り  
「浜のミサンガ 環 (たまき)」(太・細2本セット/1,100円税込)  
ブルーバージョン (青)・ウインターバージョン (緑)・ホワイトバージョン (白)・  
さくらなでしこバージョン (ピンク) の4種を手作りしながら販売します。
  - 2) 大槌ご当地グルメ開発プロジェクト×「いわて三陸復興食堂」イートイン
    - ・三陸復興 イカ焼きそば
    - ・三陸唐揚げセット 三陸タコ唐揚げ&秋鮭フライ
    - ・大槌ご当地メニュー※飲食コーナーは無くなり次第終了
  - 3) 山田町・大槌町の「震災から1年の懸命の歩み」
  - 4) ステージLIVE  
復興食堂プロデューサー 松本哲也  
浜のミサンガ「環」テーマソング 「歩きましょう」 RIA&ノリシゲ
- 参加者 山田町・大槌町・陸前高田「浜のミサンガ 環」の作り手 4人  
大槌ご当地グルメ開発プロジェクトチーム  
三陸に仕事を!プロジェクト実行委員会  
復興食堂実行委員会 など 総勢約20名

## 「浜のミサンガ 環（たまき）」について

未曾有の大震災から1年が経とうとしています。避難所から仮設住宅へと住まいは移ったものの、地域の暮らしを支え、生きていくための原動力となる「仕事」はまだまだ得られていません。仮設住宅に移ることで、暖房費を初めとした水道光熱費などの支払いが必要になってきました。被災地にはなかなか思うような仕事が無く、故郷から離れざるを得ない人たちが増えてきています。

これらを打開するために、お金だけのためではなく、やりがい、張りあい、そして未来に希望をつなぐ心の糧を創出する「キャッシュ・フォー・ワーク」を取り入れたのが、三陸に仕事を！プロジェクト「浜のミサンガ 環（たまき）」です。

このプロジェクトは、被災地で雇用を生み、被災地にお金を還流させ、仕事があることで元気を生む、仕組みです。大船渡市三陸町や釜石市などの生産グループ数名でスタートしましたが、浜から浜へ、ついには県を越え 宮城県までの広がりを見せています。震災直後は、家も家族も失って、呆然としてこもりがちになり、未来も希望も見えない日々が続きましたが、囲炉裏で仲間と一緒におしゃべりをしながら、一生懸命ミサンガ作りに励むことで、静かだった被災地に笑い声や、今後の話をする場が生まれました。

“環”とは、日本古来のプレスレットの呼称です。被災地にあった使われない漁網を利用し、ひとつひとつ漁網で編んだオリジナルのミサンガは、被災者の女性たちがグループになって手仕事で作られ、2011年6月に第一期限定販売、その後も東北地方をはじめ全国各地の店舗やインターネットを通じて販売してきました。

ミサンガの販売代金1,100円(1セット・税込)のうち、材料費や販売経費、諸経費を除いた576円が作り手の方々の賃金となります。また、材料である網を切ったりする二次加工を担い、作り手さんをサポートする現地の被災企業・被災者の方々にも1セットにつき154円(為替や材料費の変動で変化)が支払われ、被災地の方々の収入になります。

### ●キャッシュ・フォー・ワーク報告 2011年12月31日現在

[生産数]	118,028 セット
[販売数]	101,555 セット
[作り手さんの人数]	298 人
[作り手さんの収入]	67,984,128 円
[生産管理者さんたちの収入]	10,386,464 円



### ※キャッシュ・フォー・ワーク(Cash for Work)とは

「労働対価による支援」の訳。被災された方々みずからが復旧・復興のために働き、それに対して対価を支払う支援プログラムのことです。多くの途上国の災害復興の場面で採用されてきた実績があります。例えば2004年のインド洋大津波災害の被害を受けたインドネシア、2008年にミャンマーを襲ったサイクロン災害、2010年のハイチ大地震など、こうした災害では多くのNGOや国連機関によりCFWが実施され、その効果を挙げてきました。

- ・運営母体：三陸に仕事を！プロジェクト実行委員会
- ・事務局：岩手めんこいテレビ・仙台放送・盛岡博報堂・仙台博報堂・博報堂テーマビジネスユニット
- ・活動推薦団体：キャッシュ・フォー・ワーク・ジャパン

代表 永松伸吾（関西大学社会安全学部 准教授）



【FAX返信先：06—6110—7759】

《FAX返信用紙》

「三陸に仕事を!プロジェクト」広報デスク  
(プランニング・ポート内) 福島・瀬尾 宛

東日本大震災からまもなく1年…応援いただいた京都の皆さんと交流

## 「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」開催

復興への祈りを込めて漁網のミサンガを編む三陸の女性たちとともに、  
いわて三陸のご当地グルメが京都に集い、“復興への懸命の歩み”と“感謝”を伝えます

【日時】3月3日(土)11時～16時 / 【場所】三条大宮公園(三条会商店街)

## 京都市長を表敬訪問

3月5日(月)9:00～9:15 京都市役所本庁舎3F市長応接室

「いわて三陸 復興の絆キャラバン in 京都」取材 ( \_\_\_\_ 時頃 ~ )

京都市長表敬訪問 取材 ( \_\_\_\_ 時頃 ~ )

媒体名		
御社名		
部署名		
ご芳名	他 _____ 名様	
連絡先	TEL _____	FAX _____

《備考欄》 ご取材につきご要望・ご質問等ございましたら、ご記入願います。

※大変お手数ではございますが会場準備の都合上、ご取材いただける方は3月2日(金)までに  
FAX返信用紙または、お電話にてご連絡いただきたくお願い申し上げます。